

会 議 録

1 会議名

平成29年度第1回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

平成29年度地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

平成29年4月24日（月）午後7時00分から午後7時57分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 高橋誠一（会長）、安達ユミ子（副会長）、小林奎一、佐藤寿美子、
佐藤峰生、坪田 剛、荷屋和夫、樋口清和、平野宏一、横田正美
（欠席2名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：滝澤センター長、荒木係長、星野主事

8 発言の内容

【滝澤センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【高橋会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：樋口委員に依頼

議題【協議事項】平成29年度地域活動支援事業について、事務局へ説明を求める。

【星野主事】

- ・資料「平成29年度地域活動支援事業 募集要項」に基づき説明
- ・3月5日（日）開催した「地域活動支援事業説明会」の実施内容を報告
- ・現在の提案状況を報告
- ・資料No.1「【谷浜・桑取区】平成29年度 地域活動支援事業 採択決定までのスケジュール」に基づき説明

【高橋会長】

3月5日（日）に平成29年度地域活動支援事業説明会を開催し、3月議会を経て、配分額が決定した。

先ほど事務局から説明があったように、まだ、提案が少ないようなので、その辺を踏まえながら意見交換ができればと思う。

【安達副会長】

昨年の追加募集の際、「今後のスケジュールを考えた結果、事業目的を達成するのは難しいから取り下げたい」という団体がいたが、その団体から相談はあったか。

【星野主事】

現段階では相談はいただいている。

【高橋会長】

資料No.2で他区の事業内容を示してもらっているが、資料を参考にしながら、地域で提案できるようなものがあれば、委員からも協力していただき、提案していただきたい。

昨年、提案していただいた団体で「下綱子町内会」があったかと思うが、そこは提案する動きはあるか。

【星野主事】

提案に向け相談をいただいている。

【高橋会長】

現状では、全て出揃っているわけではないので、中身のことについて協議することはできないが、配分額までは余裕があるという状況である。

【滝澤センター長】

事務局で相談を受けている中で、感じていることは、皆さん、備品購入のイメージが強いようである。日頃、ソフト事業で、地域のために貢献していただいていることもあるかと思う。そういったところに当補助金を活用していただきたい。事業をレベルアップさせるためにも使えると思うので、その点も含めてお声掛けいただければありがたい。

【高橋会長】

地域のイベントに対しても、それを支援する事業を提案することはできると思うので、そういうことに補助金を活用いただければと思う。

去年、「トレイルランナーズカップ上越くわどり大会」がくわどり市民の森で開催されたが、「今年も開催したい」という話がある。

【佐藤寿美子委員】

今年も開催予定である。

【高橋会長】

何か事業を提案する予定はあるか。

【佐藤寿美子委員】

基本的なことが決まっておらず、提案するまでに至っていない。

【横田委員】

市からは、基本的に参加費で賄える、という説明があり、地元の負担はほとんどないと聞いている。ただ、地元で応援や農産物販売等をして盛り上げてほしいとのことだが、それも、この1年間の収支や、状況を見てみないと、どういうものが必要か分からない。

【佐藤寿美子委員】

5月の終わりに会議があるので、それ以降でないと詳細は決まらない。昨年と少し違ってきている。

【高橋会長】

私の知り合いで、当イベントに参加するため、東京から来た方もいる。

【佐藤寿美子委員】

提案するにしても、開催日は決まっているが、募集期間までに書類の準備等が間に合わないと思う。

【高橋会長】

では、この件も含め、必要があれば相談していただきたいと思う。

他に何かあるか。

(特になし)

では、相談があるものは、事務局から指導をしていただきながら、期限までに事務局でまとめていただき、審査したいと思うので、よろしく願いしたい。

次に、次回の協議会日程についてだが、事務局の提案では5月26日（金）となって

いる。それについてはいかがか。

— 日程調整 —

- ・次回協議会：5月26日（金）午後7時から

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【星野主事】

- ・資料No.3「平成29年度 谷浜・桑取区地域協議会 スケジュール（案）」、
参考資料「地域課題に関する意見集約表」に基づき説明

本日は、参考資料の中で、優先して審議する内容を絞るかどうか、絞る場合は、審議したいテーマについて意見交換をしていただきたい。

【高橋会長】

事務局から「今後のスケジュールについて」と「地域課題に関する意見集約」について説明してもらったが、最初に資料No.3のスケジュールについて意見交換を行いたい。

自主的審議事項として、子育て支援を中心に審議してきたが、子育てを支援するために、どういう策があるか、具体的に絞り込めずに進めてきた。今年は、テーマを絞ったほうがいいのではないか、という事務局の提案である。

「住民との意見交換会」についても、委員から意見が出され、今年に開催するスケジュールとなっているが、この辺も含め意見を伺いたいと思う。

【安達副会長】

「子育て支援」の審議の中で、地域活動支援事業を活用して放課後児童クラブを支援したり、他区から転居してきた方からお話を聴いたりした経緯もある。

現在、谷浜小学校の放課後児童クラブの利用者は4人くらいだが、地域活動支援事業を活用して設立した当時は20人くらいの子どもが利用していた。地域活動支援事業を活用して、放課後児童クラブを設立した理由は、PTAの人たちから「集落に子どもがいないから遊べない」、「遊ぶとしたら祖父母が送り迎えをしなくてはいけない」という声があったからである。祖父母が送り迎えをするとすると、車を運転できない人たちは、自分たちでは役に立たないから、若い人たちで地域外に出たほうがいい、という考え方をしていたようだ。

そういうこともあり、設立当時のPTAの方たちは、この地域の子ども同士の遊びを豊かにしたい、暮らしを豊かにしたい、ということで利用していたが、保護者の考え方もだんだん変わってきて、現在は4人くらいの利用となっている。その点を含めて、放

課後の子どもたちの支援について、再度、考えなくてはならないが、そこは、ハード面を整備してきたという経緯もあるし、何か策を講じても地域の子どもの人数がすぐに増えるわけでもないので、まず、今地域にいるお年寄りが元気を出せばいいのではないか。老人クラブの組織がある町内とない町内があるが、あるところでは、もう少し若い人に入ってもらえるような働き掛けをしたほうがいいのか、という意見が委員からも出ていたので、「高齢者の支援」にシフトしていくのも有りだと思っている。

そして、将来、空き家になる家が目に見えているという話が、以前、佐藤峰生委員から出たが、今後どうするか、ということをお所有者にストレートに聞くことはできないだろうし、所有者の中には、「時々帰ってくるから維持しておきたい」という方もいると思うが、将来、空き家になった時に誰かが入ってくれるような見通しが持てるように、空き家のリストを作ってはどうか。

空き家の問題は大きな課題だと思っている。

【小林委員】

各町内会に空き家や空き家になりそうな家の数を聞けば、かなりの数になると思う。今暮らしている住民が抱えている問題は、子育て支援どころの話ではない。

【高橋会長】

お年寄りの女性を含めて話し合いの場を持ち、孫とどのように関わっているのか、ということ、一緒になって考えていきたい。若いお母さん方の子育てを手伝っていただき、若い方に当地区に住んでもらえばいいのではないかとも思うが、安達副会長の話にもあったように、若い者は、町へ行きたければ行っていい、というような話もある。若い世代との兼ね合いも含めながら出てくる問題なので、祖母世代の意見も本当に大事だと思っている。孫の面倒を見てくれれば、若い者は仕事ができる。通勤の兼ね合いから言っても、勤務先の近くに住んでいなくても、十分に生活できるという意見も以前に出ていた。

当地区は、ゲートボールと輪投げをセットで活動している団体のメンバーの3分の2以上が女性である。その方たちに集まってもらえれば、いろいろな意見が出るのではないかと思う。老人会に声掛けをしたほうがいいのか、輪投げ同好会のような団体に声を掛けたほうがいいのか、その辺も含めて考えながら7月に意見交換会を開催したいと思う。

空き家の話は、中学生が、子どもたちの目で空き家の調査をした、という一つのきっ

かけがあるので、地域協議会でも町内会からいろいろな意見を聞いていければと思っています。

また、若い人が経済的に大変だし、家賃が安くて、学校が近くていい、ということになれば、場合によっては、条件に合う空き家を借りようという人が出てくるかもしれない。

【小林委員】

空き家についてだが、各町内会長さんに言わせれば、個人の問題で、「あと5年後には、この家は空き家になる」ということを本音で話せばいいが、報告としては挙げられないのではないか。

そして、私も大宮に住んでいた時、両親を呼んで一緒に住めばいいかと思ったが、基本的にお年寄りの方は都会では住めない。それと同時に、都会の人も田舎暮らしはできないと思っている。こちらでずっと生活しているお年寄りの方は、都会では暮らしていけないかもしれない。そういうことを考えると、少し考え方を変えないと解決できない問題がかなりあると思っている。

【平野委員】

当案件は、プロの方の話を聞かないと無理ではないか。住民の方から話を聞くのもいいが、特に参考になる意見はないと思っている。市を通じてプロの方を呼んでいただかないと、何も良いアイデアが出てこないのではないか。

【高橋会長】

リージョンプラザ上越で講演会が開催された際、講師の方は、「直江津やその周辺にいる方は、皆、同居していると同じようなものだから、それを親子別々に暮らしているとは言わない。年に3回くらいだけでもいいから実家に帰るという環境が大事」とおっしゃっていた。そういう意味では、当地区にも農業をするためだけに帰ってくるという方もいるので、そういう取組を支援するという方法も一つある。

【滝澤センター長】

安達副会長から、子育て支援については解決した部分があるということなので、事務局としては、この案件については一旦区切り、他にどういう問題があるのか、という部分で自主的審議を進めていただいてはと思う。

小林委員が発言されたように、空き家対策については、根本的な問題ある。また、平野委員からは、プロから意見を聞きたいといった提案もあった。

地域活動支援事業の採択審査も入ってくるので、事務局としては、皆さんがどういった課題を持っているのか、自主的審議で審議していきたい案件についてアンケートで取らせていただき、その中から、谷浜・桑取区の自主的審議として、優先的に審議したいものは何かを審議していただければ、協議もスムーズに進むのではないかと思います。

女性との意見交換会の件も、どのような課題で意見交換をしたいかでお呼びする方も変わってくると思っている。

一旦、子育て支援については一区切りとさせていただき、高齢者問題や他の案件について、皆さんから意見を挙げていただき、それを確認した上で、次回、皆さんから協議していただければと考えているが、いかがか。

【高橋会長】

「子育て支援」という大きな括りの中では、なかなか焦点が絞られていかないので、女性や高齢者の方々との意見交換の場を設けながら、地域を元気するためには、どうしたらよいか、ということを見出していければいいのではないか。

当地区で、団体やサークル活動等をしている方たちがいれば教えていただきたい。

昔、有間川は民謡が盛んで、民謡クラブにたくさんの方たちが加入されていたが、今はだいぶ少なくなってきたようだ。桑取地区にも民謡サークルがあり、一所懸命活動していると聞いている。そういうところには、女性の方が多く参加していると思うので、そこに声を掛けるのも一つの方法だと思っている。

【安達副会長】

事務局からアンケート用紙を作ってください、皆さんの意見を集約するという事なので、そこに項目を加えればいいのではないか。

【樋口委員】

自主的審議事項の課題についてだが、何もたたき台がない状態なので、事務局でこれまで出ている課題について、担当課の意見をまとめ、ある程度議題の候補を挙げてもらい、我々がそれに対しての取り組み方を協議するという方向でいくとスムーズにいくのではないか。

【高橋会長】

市でも空き家対策していると思う。何年か前に、議員が空き家について調査し、議会で報告していたこともあったかと思う。市でも、空き家対策をやらなくてはいけない状況の中で、データベースも作っていると思う。

【滝澤センター長】

「空き家対策」ということであれば、それに絞って審議することはできる。

市でもいろいろな課題はあるが、地域協議会なので、市全体の課題というよりも、谷浜・桑取区で何が課題になっているかを各委員から出してもらい、それについての市の取り組み方を資料として出させていただく。また、地域協議会に担当課を呼び、説明を受けることも可能である。

【高橋会長】

では、ある課題について、市から資料を出してもらいたい等があれば、出していただきたいと思う。

【安達副会長】

そういうことも、アンケートに書き出していただければ整理できるのではないか。

【高橋会長】

では、委員からは地域の課題について意見を出していただきたい。

今後の資料として、全市的な高齢者の年齢分布や世帯分布は地区ごとに出ているので、谷浜・桑取区の世帯構成の分布や年齢全体の分布を出していただいてもいいかと思う。空き家情報についても、全市的な軒数と谷浜・桑取区の軒数のデータがあれば示していただきたい。

その辺については、アンケートを記入する中で、「谷浜・桑取区地域協議会として、こういうデータが欲しい」ということであれば、事務局へ連絡していただきたい。アンケートには、いろいろなことを書いていただいて、情報を事務局へ伝えていただいたほうが、事務局も探しやすいと思うので、忌憚のない意見を多数書いていただきたい。

【小林委員】

その前に、地域の方たちとの意見交換をしてから事務局へ提出したほうがいいのではないか。配布された参考資料を見ると、独りよがりだったり、今どきの考え方ではなかったりするような意見もあるので、もっと具体的な意見を挙げられればと思う。

先に意見交換会を実施したほうがいいのではないか。

【高橋会長】

地域の女性との意見交換会をポイントにしながら、それ以外にも、今出された意見について出していただければと思う。

子育て支援についても、事務局から細かくまとめていただいたので、よく読んでいた

だき、重複しても結構なので出していただきたい。

自主的審議については、一定の結論を地域協議会として出し、市から答申されると、ある程度の拘束力や、実現性を持つのだが、子育て支援については、地域協議会としての意見を市に伝えるところまで行けていないという現状である。

今まで、自主的審議をして市へ提案したのは1件だけあるため、自主的審議は大事にしていきたいと思っている。

では、具体的なテーマを絞ることについては、当面、老人会も含め、女性との意見交換会を柱にし、内容を詰めていきたいと思う。

老人会も解散している地域が多くなっているが、地域の元気がなくなってしまうことその他、老人会の組織そのものに変化が現れてきているので、場合によっては、子供会と青年会の組織についても議論できればと思う。

【小林委員】

毎年、知らない間に町内会で老人会の会長が発表されている。老人会としての活動はあまりしていないようだ。

【滝澤センター長】

確認させていただきたい。

まずは、老人会や女性との意見交換会を開催し、地域の課題について、その方たちからもいろいろな意見をいただき、それを基に地域協議会で、何を自主的審議にしていくかを協議していく、という進め方でよろしいか。

(異議なし)

女性と老人会の方々は別々で会を設けたほうがよろしいか。

(「一緒にいいのではないか」という声があり)

では、事務局でもいろいろな案を考えさせていただき、また、皆さんへお示ししたいと思う。

【高橋会長】

では、自主的審議については、具体的に動いていきたいと思う。

地域活動支援事業については、例年どおり進めていきたいと思うが、提案したい方が地域にいれば、委員から御指導していただきたいと思っている。

この件については、以上で終了とする。

3月5日(日)の地域活動支援事業説明会で、いろいろな意見が出ていたが、それに

ついてはどうか。

【安達副会長】

毎年、3月の日曜日に説明会を実施しているが、やはり、日曜日だと各町内で、総会や会合があり、出席できない方がいるので、土曜日がいいのではないか。今回も3月の始めだから、あまり総会等はない、と思っていたが、いくつかの町内で総会等があり、出席できない方が多数いた。

【高橋会長】

その辺は、町内会長協議会の皆さんとも調整しながら決定したいと思う。

他に何かあるか。

【樋口委員】

次回協議会の5月26日（金）は、国を挙げてやっている「プレミアムフライデー」の日であるが、いいのか。

【滝澤センター長】

地域活動支援事業の採択審査を早くし、提案者の方々に事業を実施していただきたいのと、北部まちづくりセンターの管轄の地域協議会が6区あり、他の協議会との日程の兼ね合いで5月26日を案とさせていただいた。26日以外がよろしければ、変更も可能である。

【高橋会長】

— 再度、日程調整 —

- ・次回協議会：5月26日（金）午後7時から
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。